

4. アイディアいっぱい委員会活動

主体的に図書館の活動を進めさせることにより、子どもたちが「自分たちの図書館」という愛着をもって主体的に図書館の活動を楽しみ、活動を通して自分に自信をもってくれるよう図書委員会の児童達の意欲を引き出すことに取り組んだ。委員会活動の時間に子どもたちは、「自分たちの図書館を楽しいところにしてよう。」「たくさんの人がきて、たくさん本を借りて、たくさん読んで本の楽しさを知ってもらおう。」とアイディアを出し合い活動を楽しんだ。一つ成功すると、自信をもち新しいアイディアを出すようになった。

① 学級文庫の選書と入れ替え



いつも新鮮な本を学級文庫に入れて、本を気持ちよく読んでもらおうと月毎に学級文庫の入れ替えを委員会活動として行った。担任の希望カードをもとに、自分たちが選んだ本を学級文庫に入れるという活動は、委員会児童に喜びと自信をつけた。また、図書館と学級担任・児童とのつながりをもつことができ、充実感のもてる活動となった。

資料：希望カード

←学級貸し出し用 BOX 作り

読みたくなるような、楽しいイメージの箱にしよう。

→毎月の入れ替えは、図書委員会にお任せを。その学年の希望を聞いて、本を選んで配達します。

② 図書館キャラクター作り

自分たちが考えたキャラクターで図書館を親しみのあるものにしてとキャラクター作りを楽しんだ。図書館の掲示物や図書祭りの景品に添付するなど子どもの考案したものは温かく好評である。自分の考案したものがたくさんの人が見てくれるところに使われるのを見、委員会の子もたちは満足できた様子である。

↓委員会児童の考案したキャラクターを使った図書祭りの景品。





③ 読書週間の取り組み

学校で読むだけでなく、本を借りて帰って家でも読む習慣をもとうと、読書週間期間中は、「親子読書」に取り組んだ。図書委員会メンバーが、先ず本を読んで、おすすめカードに書き、昼の放送で読んだり、掲示したりして啓蒙に努めた。また、ノーテレビ・ノーゲーム運動とも合わせて標語を募集したりすることで、家庭読書への意欲づけとなった。

←ノーメディア運動の標語

図書委員会が見本を作って掲示した。



←図書委員会がおすすめのこわくしい話
こわくてももしろい本です。読書の秋に、ぜひ読んでみてください。



↑おすすめの本の紹介を書こう。どうやって書いたら、読みたくなってもらえるかな。

④ 図書館クイズ「本で豆知識をえよう！」

図書館に足を運び、本を借りに来てもらえるようにと、図書館クイズをしようとのアイデアが出された。子ども達はクイズが大好きである。早速、委員会児童一人ひとりが本に関するクイズを考えることになった。クイズ用紙には、どの本を読めば分かるかななどのヒントも書くことにした。クイズをして、「なるほど！」と知識を得たことへの喜びがあるものにしようと、本の中からクイズ問題探しを楽しんだ。クイズのための本を探すことで本の分類がわかったり、答えを見つけるために本を詳しく読んだり、図鑑で調べたりすることで、調べる力を養うことにつながった。クイズは、子どもの知的好奇心を誘い、一つ正解できると楽しくなり、クイズをするために本を借りに来る児童が増え、図書館は賑わうことができた。



←本を1冊借りるごとに、クイズを1問することができる。問題は、初級、中級、上級にわかれ、箱の中のくじをひいて問題の番号を決定。

↓クイズ正解者には、図書館豆知識とオリジナルマスコットキャラクターの着いたカードがもらえる。



↓難問に、うーんと首をひねる。図書委員が、ヒントの本のある場所を教えてあげるよ。



→クイズポイントが10個たると、本を余分に借りられるサービス券をゲット。

⑤図書祭り

年に2回開催される「図書祭り」は、全校児童が楽しみにしている図書委員会主催の最大のイベントでもある。祭りを盛り上げようと全校のみんなが楽しんでくれる姿を想像しながら活発な意見が交換され、子ども達のユニークなアイデアから祭りの内容が決められていく。



←楽しい図書祭りに、ぜひ来て下さい。そろいの法被を着て、ランチルームでコマースヤル。

↓「豪華景品付き貸し出し」に、長蛇の列が。カウンター当番は、大忙し。



↑法被を着たり、物語の登場人物に仮装しての、本の貸し出し。お祭りの雰囲気盛り上げている。

→ 紙芝居コーナーは、低学年に人気の定番。



← お笑い劇場：笑い話を覚えて、紹介。



↑ こわ〜い話コーナー

こわい音楽をかけながら、こわい話を読む。こわいけれど、聞きたい子がたくさん集まった。

↑ 図書館のことや、本のある場所の分かるクイズラリー。正解すると、本を2冊余分に借りられるサービス券がもらえる。

← 手作りコーナー

折り紙や手作りで簡単なおもちゃをつくることができる。図書委員や、高学年が下学年に本を見ながら作り方を説明。参加した人には、サービス券がもらえる。



→ 宝くじの景品引き替えに殺到する子どもたち。豪華景品は、図書委員考案のキャラクターつきオリジナルグッズ。



本を通して、上学年と下学年が親しんだり、想像することの楽しさを味わったり、本を読む機会を得たり、普段直接関わることのない管理職や他学級の先生・担任でない先生と本を介してコミュニケーションをとることができたり、また、委員会の児童は活動を通して自信や充実感を味わうことができたりと図書祭りから得る利点は大きいものである。

子どもたちが「自分たちの図書館」という愛着をもって主体的に取り組み、楽しみながら図書館の活動をすることで自分に自信をもってくれるよう図書委員会の児童の意欲を引き出す工夫を行った。司書の仕事を見ながら自分たちもやってみたくと、子ども達はいろいろなアイデアを出すようになった。一つの活動が成功し、みんなから認められると、それが喜びとなり、自分の仕事として責任感も生まれ、積極的に取り組むようになった。